

福祉サービス第三者評価 評価結果

くっくおさんぽ保育園

横浜市港北区日吉 6-1-7

運営主体：社会福祉法人 くっくあゆみの会

実施概要	1 ページ
総合評価 (評価結果についての講評)	2～4 ページ
評価領域ごとの特記事項	5～6 ページ
分類別評価結果	7～16 ページ
利用者家族アンケート分析・集計結果	17～23 ページ
利用者本人調査分析	24～25 ページ
事業者意見	26 ページ

2007年5月20日作成

評価機関：特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	くっくおさんぽ保育園	
報告書作成日	2007年5月20日	評価に要した期間 約5ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま	

評価方法

<p>1、自己評価</p> <p>実施期間:06年12月中旬～07年1月31日</p>	<p>職員会議や文書で趣旨等を説明した後、常勤・非常勤全ての職員それぞれが自己評価票を持ち帰り、記入した。</p> <p>各個人が記入したものを持ち寄り、園長と各分野のリーダー(保育・看護・給食)が協議し、意見交換しながら1項目ずつの確認を行った。</p> <p>最終的に、園長が確認しまとめた。</p>
<p>2、利用者家族アンケート調査</p> <p>実施期間:06年12月28日～07年1月22日</p>	<p>全園児の保護者(59家族)に対して事業者側から手渡し。</p> <p>各保護者より、同封の返送用封筒にて、評価機関宛に無記名で返送。</p>
<p>3、訪問実地調査</p> <p>実施日:第1日 07年3月13日 第2日 07年3月19日</p>	<p>[第1日]</p> <p>午前:各クラスにて観察調査 昼食:各クラスにて観察調査(園児と一緒に給食をいただく) 午後:書類調査及び保育主任と面接調査。その後、園長・保育主任と事業者面接調査。その間、適宜観察調査を行った。</p> <p>[第2日]</p> <p>午前:各クラスにて観察調査 昼食:各クラスにて観察調査(園児と一緒に給食をいただく) 午後:各クラス担任保育士6名、看護師、栄養士及び非常勤職員1名と面接調査。その後、園長・保育主任と事業者面接調査。その間、適宜観察調査を行った。最後に意見交換を行い、終了。</p>
<p>4、利用者本人調査</p> <p>実施日:第1日 07年3月13日 第2日 07年3月19日</p>	<p>観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施。園外への散歩にも同行した。</p> <p>聞き取り調査は、主に年長児を対象として、上記観察調査時及び昼食同席時に、適宜実施した。</p>

総合評価（評価結果についての講評）

【施設の概要】

くっくおさんぽ保育園は、東横線日吉駅から徒歩約15分、住宅街の中にあります。鉄筋コンクリート2階建てで、園庭を囲んで3つの保育室ゾーンと事務室・給食室ゾーンに分かれ、それぞれ外側の木製階段・回廊(ウッドデッキ)で結ばれています。

定員は60名(0～5歳児)、平日の開園時間は7時～20時です。運営主体は社会福祉法人くっくあゆみの会であり、2001年(平成13年)4月に開設されました。

くっくあゆみの会は、1976年(昭和51年)に、同じ区内の大倉山で、無認可保育所「くっく子どもの家共同保育所」を設立したのが始まりです。当園が日吉に認可園として開設された後、大倉山の「くっく子どもの家保育所」も認可園となり、現在は「くっくおさんぽ保育園大倉山」となっています。無認可保育所時代を含めると約30年の実績があります。

保育理念(法人理念)は、「一人ひとりが尊重され、その人らしく輝き生きていくことができる社会を創造することに貢献したいと考える」「常に現場の状況を第一とし、スタッフ一人ひとりが子どもの人権を守り、自立への援助を図ることを共有し、理解し合える運営をしていく」としています。この理念のもと、保育目標として、「さまざまな生活体験をします。」「自分も友だちも大切にします。」「豊かな感性を引き出し、表現できる力を育みます。」「自分の要求や意見を主張できます。」「生きていく力をしっかりつけるため、たくさん遊びます。」の5つを掲げています。

高く評価できる点

1、子どもたちは、様々な経験を積みながら、園生活を楽しんでいきます。

「どろんことおひさまと仲良くしよう」とのスローガンのもと、子どもたちは、散歩先の公園や広場で、「しっぽとり」「サッカーボール遊び」「鬼ごっこ」「縄跳び」等、年齢に合った遊び方で、思いっきり身体を動かしています。散歩の途中では、つくしや花、枯れ葉、虫やミミズ等を見つけて、自然と直接触れることも楽しんでいます。園庭や屋上では、滑り台や三輪車で遊んだり、追いかっこやダンスをしたり、2階までの高さがある立体遊具を昇り降りしたりし、砂場ではまごことや山づくりをしています。6月は泥んこ月間として、泥んこで存分に遊んでいます。

また、子どもたちは、リトミックや絵画を、専門の先生から定期的に指導を受ける他、和太鼓・荒馬踊りなどを保育士から習う等、自分の気持ちを表現することを学んでいます。異年齢児との交流を図る縦割り保育の日には、小さい子は大きい子の様子を見て、いろんなことを学び、大きい子は小さい子の世話をして、やさしく接することを学んでいます。

これらの豊かな遊び等の背景には、保育士が、子どもたちの遊びに加わり、子ども同士をつなげたり、新しい遊びをリードしたり、遊びを盛り上げる等の働きかけをしていることがあります。また、お散歩マップによる危険箇所のチェックや、避難訓練・不審者対応訓練を行う等のリスク管理がなされ、子どもたちの安全に配慮しています。

さらに、産地直送による低農薬米や国産の野菜(バナナ等の果物を除く)を使用した安全でおいしく季節感のある給食や、手作りおやつを提供等による食育に力を入れています。充実した健康管理体制とともに、子どもたちの体づくり・健康増進を支えています。

2、職員の研修が充実しています。

研修計画が立てられ、外部研修に積極的に参加しています。特に、2006年度は、発達障がいに関する研修を、多数の職員が受けています。

また、内部研修に力を入れています。例えば、2006年度は、前半期は自主勉強会として、職員が数人ずつのグループに分かれ、「発達障がい」「遊び」「乳児保育」「描画・制作」「食事・偏食」等について、それぞれ一つのテーマを分担して学習し、その成果をもとに全職員で議論しています。後半期は、各クラスでの保育の様子をビデオに撮り、それをもとに、全職員で、良い点や、直すべき点・不適切な点等を挙げました。2・3ヶ月後に、再度ビデオを撮り、改善の度合いを確認しています。

また、保育士と栄養士・調理師が、それぞれ役割を交代し、保育士が給食を作り、栄養士・調理師が保育にあたる日を設ける等、お互いの仕事内容を理解できるようにする試みを行っています。

このような活動により、保育の質の向上が図られることはもちろんのこと、職員同士の円滑なコミュニケーションにつながることも期待できます。

3、地域子育て支援に、さまざまな工夫をしています。

地域子育て支援として、一時保育・交流保育・園庭開放・プール開放・育児相談等を実施し、さまざまな工夫を行っています。

例えば、園庭開放の日は、0歳児は「くっく赤ちゃん会」(月1回)、1~3歳児は「くっく遊ぼう会」(月3回)と年齢で分け、保育士があらかじめプログラムを準備して、来園した親子を援助し、単なる遊びにとどまらないようにしています。園庭だけでなく屋上を使うこともできる他、外遊びが難しい0歳児には、屋内の小ホールも開放しています。園庭開放に来ている親子向けに、独自にクリスマス会等の催しも行っています。このような情報を園の掲示板に掲示する他、毎月発行する「園庭開放 NEWS」に掲載して地域に配布するなど、来園しやすくしています。

また、育児相談は、園として随時受け付けていますが、園庭開放の日には地域の主任児童委員(当園の苦情解決第三者委員を兼ねる)が来園し、地域住民からの育児に限らない広い範囲の相談にのっています。

さらに、園庭開放や一時保育等で来園する親子に、必要に応じて園への入所に結びつけたり、専門機関につないだりしています。

特に力を入れて取り組んでいる点

保護者との良い関係づくりに努めています。

子どもたち全員に対し、一人ひとりの連絡帳があり、毎日の園での様子を書いて伝える他、送迎時に、保育士は、できるだけ直接保護者と話すように心がけています。また、毎月発行の園だよりには、各クラスの様子その他、給食室だより・給食だより・保健だより等が含まれ、さまざまな情報を提供しています。さらに、園内に写真を掲示したり、年度末にはビデオ上映を行う等、保護者に子どもたちの園生活の様子を伝えることに努めています。

保護者からの要望・意見・苦情等に対しては、各クラスに意見箱を設置しています。また、クラス懇談会や各種の行事終了後に保護者に対してアンケートを行っている他、年度末にもまとめてアンケートを実施しています。

また、月1回、お迎えの時間に合わせ軽食を用意して、「Hot カフェ」を開催しています。保護者間の交流や、園との意見交換の場となっています。

父母会が結成されており、月1回の父母会の会合に、必要があれば、園長・職員が参加し、意見交換をしています。また、父母会主催のバザーや陶芸教室などに、職員も参加し手伝っています。

これらの様々な取り組みにも拘わらず、家族アンケートによると、園の意図が保護者に十分には理解されていなかったり、保護者の意見や要望が園に伝わっていなかったり等が読み取れます。保護者に対してさらに丁寧な説明を心がけるとともに、園と保護者がお互いに理解し合い、十分な連携をとって行くにはどのようにしたら良いかを父母会と話し合うなど、一層の工夫、努力が望まれます。

改善や工夫が望まれる点

人材育成計画の策定

毎年度初めに、各職員の目標を、園長と主任が合議して設定し、その後、園長と本人がその目標を達成する方法等について話し合っています。しかし、人材育成計画を策定しておらず、年度毎の目標が、一人ひとりの育成計画とどのように結びつくのかが不明確であり、本人自身にも、どのようなレベルが最終的な到達目標となっているかが分かりません。人材育成に対する基本的な考え方や、新人保育士・中堅保育士・クラス担任保育士・主任保育士それぞれの役割・能力・習熟度などの期待水準、育成の方法（OJT によるもの、内部研修や外部研修によるもの、自己啓発によるものなど）を明文化することが望まれます。

また、策定した人材育成計画に基づき、職員一人ひとりに適した研修計画を立て、より効果的な研修にすることが望まれます。

当評価機関では、「障害」を「障がい」と表記します。

1、人権の尊重

- ◇ 保育理念は、「一人ひとりが尊重され、その人らしく輝き生きていくことができる社会を創造することに貢献する」と掲げ、人権を尊重したものとなっています。
- ◇ 全職員で「こどもの権利条約」を読み合わせ、人権について学習しています。
- ◇ 個人情報の保護に関する規程を作成しています。

2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ◇ 施設は新しく、趣向がこらされており、各保育室は独立した構造で他クラスからの騒音などはなく、快適な環境が確保されています。
- ◇ 「どろんことおひさまと仲良くしよう」というスローガンのもと、子どもたちは、園庭や散歩先の公園・広場等で、思いっきり身体を使って遊び込んでいます。
- ◇ 子どもたちは、リトミック・絵画を、定期的に外部の専門の先生から習う他、和太鼓・荒馬踊り等を保育士から習う等、自分の気持ちを表現することを学んでいます。
- ◇ 食育に力を入れています。
- ◇ 食事内容は、季節感があり、変化のある工夫されたメニューです。子どもたちはほとんど残すことはなく、ゆったりとした雰囲気の中で、食事を楽しんでいます。
- ◇ 産地直送の低農薬米や国産の野菜（バナナ等の果物を除く）を使用する等、食材の安全性に配慮しています。
- ◇ 保護者には、その日の給食のサンプルを展示し、また「給食だより」「給食室だより」で食事に関する情報を提供しています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ◇ 保育計画は、地域の実態や保護者の就労状況等を考慮して、作成しています。
- ◇ 0、1歳児だけでなく全員の個別指導計画があります。
- ◇ 特に配慮の必要な子どもを、積極的に受け入れています。
- ◇ 障がい児には専任の保育士がつき、専門機関とも連携を密にとって一人ひとりにあった対応をしています。また、横浜市総合リハビリテーションセンターの保育所巡回相談も受けています。
- ◇ 苦情対応マニュアルがあります。要望・苦情の受け付けについては保護者に説明しており、各クラスに意見箱を設置しています。また、行事・懇談会ごとにアンケートをとり、年度末にも意見を聞いています。
- ◇ 健康管理・感染症対策・衛生管理マニュアルがあります。
- ◇ 災害や事故への対応、不審者対応についてのマニュアルがあり、事務室に地域の公園のリスクマップも掲示して安全確保に努めています。
- ◇ 子どもたち全員に対し、一人ひとりの連絡帳があり、毎日の園での様子を書いて伝える他、送迎時に、保育士は、できるだけ直接保護者と話すように心がけています。
- ◇ 毎月発行の園だよりには、各クラスの様子その他、給食だよりや保健だより等が含まれ、さまざまな情報を保護者に提供しています。
- ◇ 父母会が作られ、園作りに協力的で、良い関係が築かれています。

4、地域との交流・連携

- ◇ 一時保育・交流保育・園庭開放・プール開放等を行っています。園庭開放の際は、保育士がプログラムを準備し、来園した親子を援助しています。園庭だけでなく屋上を使うこともできる他、0歳児には、外遊びが難しいので、屋内の小ホールを開放しています。
- ◇ 育児相談は、いつでも受け付けています。また、ホームページに育児相談事例を載せています。（ホームページは現在更新休止中です。）
- ◇ もちつき大会や、やきいも大会等に地域住民を招待しています。
- ◇ 地域の人たちへ、絵本や和太鼓等を貸し出しています。また、大ホールを町内会の人々が使うこともできます。
- ◇ 園のパフレット等で、情報を提供しています。パフレットは、色刷りで写真を多くし、園の保育内容や行事等が分かるように工夫しています。

5、運営上の透明性の確保と継続性

- ◇ 守るべき法・規範・倫理等は、「全国保育士会倫理綱領」および「よこはまの保育」中の『法が求める保育者像』を配布したり、更衣室に掲示したりして、職員に周知しています。
- ◇ 園長と各職員との年2回の面接の中で、保育理念・保育方針を確認しています。
- ◇ 主任は、個々の職員の事情を把握して勤務日程を編成するなど、働きやすくなるように配慮しています。
- ◇ 法人として、中長期的に目指す方向を定めています。

6、職員の資質向上の促進

- ◇ 毎年度初めに、各職員の目標を、園長と主任が合議して設定し、その後、園長と本人が面接し、その目標の達成方法等について話し合っています。
- ◇ 外部の研修会に積極的に参加しています。特に、2006年度は発達障がいに関する研修を多数の職員が受けています。
- ◇ 内部研修として、職員が数グループに分かれて学習会を行ったり、各クラスでの保育の様子をビデオに撮り、職員全員で、良い点や直すべき点・不適切な点等を挙げたり等、保育の向上に努めています。
- ◇ 担任会議・クラス会議等で、保育技術について話し合い、質の向上を図っています。
- ◇ 保育士と栄養士・調理師が、それぞれ役割を交代し、保育士が給食を作り、栄養士・調理師が保育にあたる日を設ける等、お互いの仕事の内容をより理解できる試みを行っています。
- ◇ 各職員が自主的に業務に取り組めるように、可能な限り権限を委譲しています。
- ◇ 人材育成計画を策定し、経験・能力や習熟度に応じた役割を、期待水準として明文化することが望まれます。

分類別評価結果

横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。









「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある


評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>- 1 保育方針の共通理解と保育計画等の作成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育理念は「一人ひとりが尊重され、その人らしく輝き、生きていくことができる社会の創造に貢献し、スタッフ一人ひとりが子どもの人権を守り、自立への援助を図ること」として、子どもを尊重したものとなっています。 ・ 理念・姿勢・方針・目標が、玄関、事務室、各保育室、休憩室、トイレとあらゆるところに掲示してあり、職員に周知しています。 ・ 保育計画は、従来は「よこはまの保育」を使っていましたが、2006年夏に園の保育方針に沿った園独自の計画を、全職員が関わって作成しました。 ・ 保育計画は、地域の実態や保護者の就労状況を考慮して作成しています。 ・ 年齢ごとに全員の指導計画を作成しています。子どもたちの「卒園式に太鼓をやりたい」という意向を取り入れるなど、子どもの自主性や主体性を尊重した指導計画となっています。
<p>- 2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入園時の保護者アンケートや個人面談により、子どもの生育歴や家庭での様子、既往症などを把握して保育に活かしています。 ・ ならし保育については保護者と話し合って決めています。 ・ 個々の新入園児に対して、主に関わる担当保育士は決めますが、全員で受け入れるようにしています。 ・ 各クラスに複数の保育士がいるので、新入園児だけではなく在園児へも十分配慮できる余裕があります。また、クラスが落ち着く前の4、5月は、原則として職員は休みを取らないようにしています。 ・ 毎週、指導計画の作成・見直しを行っています。午睡の時間やクッキングの内容等には、保護者の意向も反映しています。
<p>- 3 快適な施設環境の確保</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設は新しく、趣向がこらされており、各保育室が独立した構造で、他クラスからの騒音などはありません。通風・換気にも気をつけ、温湿度も管理されています。 ・ 沐浴、シャワーの設備があり、清潔に保たれています。 ・ 各保育室の他、大小のホールやテラス、廊下など、活動や年齢によって多様な使い方をしています。

<p>- 4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 0、1歳児だけでなく全員の個別指導計画があり、特に配慮の必要な子どもにはさらに詳細な計画があり、丁寧に指導しています。 ・ 指導計画は、子どもの様子によってグループ替えをするなど、柔軟に変更・見直しを行っています。 ・ 子どもや家庭の状況は、児童票に記録され、職員会議やケース会議を通して全職員が把握しています。 ・ 日々の引継ぎは園日誌の引継ぎ表で行っています。進級時の引継ぎは引継ぎマニュアルに沿って新旧担任で行い、さらに新しい担任・副担任で会議を開いて、子どもたちの様子の把握に努めています。
<p>- 5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園は、特別配慮の必要な子どもを積極的に受け入れています。 ・ 特に配慮の必要な子どもについての対応は専門家とも相談し、職員会議で全職員に周知しています。 ・ 障がい児には専任の保育士がつき、専門機関とも連携を密にとって、一人ひとりの障がいに適した対応をしています。また、専門家につながっていない場合は横浜市総合リハビリテーションセンターの保育所巡回相談も受けています。 ・ 1階に障がい児・者用のトイレを設置しています。 ・ 職員は発達障がいやアレルギーについての学習を行い、土曜勤務やパートの職員も含めて全職員が理解をしています。 ・ 食物アレルギーの子どもについては、医師の指示のもとに、毎月保護者も含めて会議を開き、除去食・代替食で対応しています。 ・ 文化や生活習慣の異なる子どもは、現在は在籍していませんが、在籍しているときは保護者への支援も含めて対応できるようになっています。
<p>- 6 苦情解決体制</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 苦情対応マニュアルがあります。 ・ 要望・苦情の受け付けについては保護者に説明しており、各クラスに意見箱を設置しています。また、行事・懇談会ごとにアンケートをとり、年度末にも意見を聞いています。 ・ 第三者委員を依頼している主任児童委員とは、月2回、園庭開放の際に会って情報交換を行っています。 ・ 要望・苦情に対する解決策は職員に周知しています。 ・ 意見・要望を記録し、それについての回答は園だよりに掲載しています。

評価領域 サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育内容[遊び]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・各クラスには、子どもたちが自由に取り出して遊べるようにおもちゃが配置され、子どもたちは落ち着いて遊んでいます。 ・子どもたちは園庭や屋上を使って、泥んこ遊びや乗り物、砂遊びなど十分遊び込んでいます。朝夕の時間も、室内でブロック、折り紙、カード、お絵かき、編み物など、自由に遊んでいます。 ・一斉活動としては、外部講師による絵画・リトミック、全員で取り組む発表会や運動会、卒園式の練習などがあり、子どもたちは一緒に学ぶことや、皆と一緒にやる楽しさも身につけています。階段の途中には子どもたちの絵が展示してありました。 ・年長の子どもたちはダンスや太鼓が好きで、自由時間にダンスをしたり、子どもたちの希望で卒園式にも太鼓を演奏するため、元気に太鼓の練習をしたりする姿が見られました。また、卒園式の歌もきれいな声で歌っていました。 ・園の伝統となっている「荒馬踊り」は保育士全員で青森に行って学び、衣装作りから取り組んでいます。 ・年少の子どものおもちゃの取り合いでは、保育士が子どもに代わり相手の気持ちを伝え、だんだん大きくなると、子どもも待ったりゆずったりできるようになります。年長になると、自分たちで解決できるように、保育士は見守っています。 ・保育士は子どもたちの遊びに加わり、子ども同士をつなげたり、新しい遊びをリードしたり、遊びを盛り上げるなどの働きかけをしています。 ・園の名称の由来ともなっている散歩は子どもたちも大好きで、週に2、3回出かけています。季節ごとに花や虫やミミズなどの自然と接し、周囲の人とも挨拶や会話を交わしています。 ・異年齢の交流としては、日常的に、年長の子どもが小さい子どもの午睡後の手伝いをしたり、4・5歳の合同クラスでも5歳児がそれとなく4歳児をサポートしたりして、面倒を見ています。また月1回、2歳から5歳までの縦割りグループを作り、散歩や食事を一緒にしています。 ・散歩や運動会、プール遊びの他、園庭の遊具や屋上等を使って、体力づくりを行っています。

- 1 保育内容[生活]






- ・子どもたちの食事の量は個別に調節しています。食の細い子にも、少しでも食べるように話しかけ、時間のかかる子どもにもせかすことなく、一人ひとりのペースを大事に進めています。
- ・献立内容は季節感があり、バラエティに富み、味もよいので子どもたちはほとんど残すことはなく、お代わりもしています。行事食も工夫され、子どもたちは園の食事を楽しんでいます。
- ・保育の中でも子どもたちのクッキングの時間があり、食育に力を入れています。
- ・栄養士・調理師は保育士と連携を取り、偏食についての学習会を持ったり、互いの意見交換を行ったりし、子どもたちの食生活を充実させています。
- ・食材の安全性についても配慮し、国産の野菜（バナナ等の果物を除く）を使用し、お米も産地直送の低農薬米を使用しています。ごはんはお櫃を使い、おいしさを引き立てています。
- ・子どもの成長に合わせて、1歳児には縁のある食器を使い、2歳児から箸を使うようにしています。
- ・保護者に向けてその日の給食内容を展示し、レシピを提供したり、ランチの試食の機会を設けたりしています。給食だより・給食室だよりで多くの情報を提供し、家庭との連携に努めています。
- ・午睡の時間、眠らない子どもは静かに絵本を読むなどして過ごしています。遅くまで午睡している子どもにも家庭での睡眠のリズムをつけるために、3時には起こすなど配慮をしています。
- ・SIDS対策のために、タイマーを使って0歳児は5分おき、1歳児は10分おきに呼吸のチェックをしています。
- ・5歳児は、夏から午睡時間を減らし、秋からは午睡を取らず、就学に向けた活動を行っています。
- ・トイレトレーニングは個人差や月齢差を考慮して、個人別に行い、家庭とも連携をとっています。
- ・お漏らしをしても「今度は教えてね」とやさしく伝え、叱ることはありません。
- ・保育士同士で、排泄について学習を行っています。
- ・就学に向けた準備として、5歳児には生活チェック表があり、身だしなみや挨拶、昨夜の睡眠時刻などを子ども自身でチェックしています。

- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]



- ・健康管理マニュアルがあり、子どもの既往症や健康状態を「個人健康記録」に記録して、職員が把握しています。
- ・園での病気やケガは、まず電話で保護者に伝え、降園後の対応についても話し合っています。
- ・健康診断や歯科健診の際は、事前に保護者からアンケートをとり、結果は保護者に伝えるとともに、看護師・担任・主任で話し合い、必要があれば嘱託医に相談しています。
- ・感染症に関するマニュアルがあり、登園停止基準は保健だよりや保育室の掲示板で保護者に周知されています。
- ・子どもが保育中に発症した場合は、保護者に連絡し、すぐに迎えに



	<p>きてもらうという原則は伝えますが、保護者の事情も考慮しながら対応しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症等の健康に関する情報は、看護師が直接職員や保護者に話す他、保健だよりでも知らせています。
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生管理マニュアルがあります。寝具・おもちゃやトイレの清掃マニュアルもあり、チェック表で徹底を図っています。 ・マニュアルは職員会議で読み合わせをし、必要なマニュアルは保育士が各自のファイルに綴じて持つなどして周知をはかっていますが、マニュアルの見直しは定期的には行っていません。
<p>- 2 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害や事故への対応、不審者対応についてのマニュアルがあり、事務室に地域の公園のリスクマップも掲示して安全確保に努めています。 ・避難訓練は、避難場所への誘導訓練のほか、保護者の子ども引き取りの訓練も実施しています。 ・緊急時の各種連絡体制・通報体制が確立しています。 ・子どものケガは、軽症であっても必ず保護者に報告しています。 ・玄関は基本的には施錠し、裏門も施錠しています。 ・防犯カメラを設置し、事務室でチェックしています。 ・職員は救急救命法を身につけ、また、事故防止の学習会も実施して、安全対策に努めています。
<p>- 3 人権の尊重</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士の子どもへの接し方は穏やかで、年齢に応じてわかりやすい言葉で話しかけています。 ・子どもが一人になったり、保育士と一対一で話したりする場所は、廊下やホール、一時保育室などがあります。 ・守秘義務についての意義や目的を、職員や実習生に周知しています。 ・個人情報の保護についての規程があり、職員に周知しています。個人に関する情報は施錠できる場所に保管しています。 ・子どもの人権については、職員全員で「子どもの権利条約」を読みあったり、虐待やジェンダーについての学習会を行ったりし、確認しあっています。 ・虐待が疑われる場合は、児童相談所や区の福祉保健センターと連携をとる体制ができており、園庭開放や一時保育を利用する親子も含めて、支援が必要な家庭を援助しています。

- 4 保護者との交流・連携






- ・園の保育方針や保育目標は、パンフレットや園だよりへ掲載するほか、各クラスにも掲示し、保護者が理解を深められるように努めています。今年1月に園の方針についてのアンケートも実施しています。
- ・5歳児まで子どもたち全員に連絡帳を使い、園と家庭で子どもの様子を伝えあい、送迎時にも直接伝えるようにしています。
- ・保護者との個人面談は年度初めに園長が対応し、秋に三者面談として保護者・園長・担任で面談を行っています。
- ・クラス懇談会は年3回、学期ごとに実施し、保育目標や子どもたちの様子を知らせ、意見交換を行っています。
- ・保護者からの相談は、園長・主任または担任が受け、内容によっては看護師・栄養士・調理師も対応しています。さらに、必要な場合は専門機関とも連携が取れる体制になっています。
- ・毎月発行の園だよりには、給食だよりや保健だよりも含まれています。その他にクラスだよりも発行し、園生活の写真を掲示したり、年度末にビデオ上映を行ったりなど、園での子ども様子を豊富に提供しています。
- ・保育参観は年1回設定しているほか、随時可能です。保育参加の機会としては神輿作りや流しそうめんがあり、神輿作りは、参加しやすいよう土曜日に実施しています。
- ・開設当初から父母会が作られ、バザーや陶芸など自主的な活動を行っています。園が実施している「HOTカフェ」（月1回、職員が中心となって軽食を用意し、迎えに来た保護者が食べながら交流できるような機会を提供している）のうち、8月のビアガーデンを共催するなど、園作りに協力的でよい関係を築いています。




評価領域 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園庭開放や育児相談で来園する人々から、子育て支援に関するニーズを聞いています。 ・ 一時保育・交流保育・園庭開放・プール開放等を行っています。そのことを園の掲示板に掲示すると同時に、駅や病院に案内チラシを置いています。 ・ 園庭開放の際は、フリーの保育士がプログラムを準備し、来園した親子を援助しています。園庭だけでなく屋上を使うこともできる他、0歳児は、外遊びが難しいので、屋内の小ホールを開放しています。 ・ 園庭開放は、0歳児は「くっく赤ちゃん会」（月1回）、1～3歳児は「くっくあそぼう会」（月3回）と分けています。 ・ 「園庭開放 NEWS」を地域に向けて発行しています。
<p>- 2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 育児相談は、いつでも受け付けています。 ・ ホームページに、育児相談事例を載せています。（現在は更新休止中です。） ・ 区の子育て支援教室で、園長が保育園の様子や育児情報を伝えたり、相談にのったりしています。 ・ 相談内容に応じて、連絡すべき関係機関・団体等を類別し、リストを作っています。 ・ 園庭開放の際に、地域の主任児童委員（当園の苦情対応第三者委員を兼ねる）が来園し、地域住民との相談に応じています。 ・ 園庭開放や一時保育等で来園する親子を、必要に応じて園への入所に結びつけたり、専門機関につないだりしています。




評価領域 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・もちつき大会や、やきいも大会等に地域住民を招待しています。 ・近隣の小学校の「未就学児と遊ぼう」に5歳児が参加して小学生と遊んだり、3年生が社会科の勉強で園に来たりなどして、交流を図っています。 ・散歩の時、子どもたちは地域の人たちと気軽に挨拶を交わしています。 ・地域の人たちへ、絵本や和太鼓等を貸し出しています。また、大ホールを町内会の人々が使うこともできます。 ・近隣の公会堂で行われる人形劇に、子どもたちが招待される等、地域の文化・レクリエーション施設等を利用しています。
<p>- 2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・園のパンフレット等で、情報を提供しています。パンフレットは、色刷りで写真を多くし、園の保育内容や行事等が分かるように工夫しています。 ・地域の子育て支援情報誌等から取材を受け、園の情報を提供しています。 ・見学日時は、できるだけ希望者の都合に合わせています。
<p>- 3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア受け入れマニュアルがあります。 ・中高生が体験学習で来る等の事例があります。 ・ボランティア受け入れに関する基本的な考え方や方針を確立させることが望まれます。 ・実習生受け入れマニュアルがあります。 ・実習生受け入れにあたり、受け入れの趣旨等基本的な考え方を職員へ説明しています。 ・実習のプログラムは、全クラスを経験すること、早番・遅番も含めたすべての時間帯を経験すること、園の行事に参加すること等を基本としています。

評価領域 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 職員の人材育成</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎年度初めに、各職員の目標を、園長と主任が合議して設定しています。その後、園長と本人が面接し、その目標を達成する方法等について話し合っています。 ・ しかし、人材育成計画を策定していないので、年度ごとの目標設定が一人ひとりの育成計画と、どのように結びつくのが明確ではありません。人材育成計画を策定することが望まれます。 ・ 内部研修を行っています。例えば 2006 年度は、年度前半は、職員が数人ずつのグループに分かれて、「発達障がい」「遊び」「乳児保育」「描画・制作」「食事・偏食」等について、それぞれ分担して勉強会を行い、その成果をもとに全員で議論しています。年度後半は、各クラスでの保育の様子をビデオに撮り、それをもとに、全職員で、良い点や直すべき点・不適切な点等を挙げ、2、3ヶ月後に再度ビデオを撮り、改善の度合いを確認しています。 ・ 外部の研修会にも、積極的に参加しています。特に、2006 年度は、発達障がいに関する研修を多数の職員が受けています。 ・ 研修結果は、職員会議等で発表し、全員が共有できるように工夫しています。また、年度末に研修報告集としてまとめ、保護者にも配布しています。 ・ 非常勤職員も園内外の研修に参加する他、職員会議、クラス会議等に参加しています。
<p>- 2 職員の技術の向上</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担任会議・クラス会議等で、保育技術について話し合い、質の向上を図っています。 ・ 保育士と栄養士・調理師が、それぞれ役割を交代し、保育士が給食を作り、栄養士・調理師が保育にあたる日を設ける等、お互いの仕事の内容をより理解しあえる試みを行っています。 ・ 必要に応じ、外部の学識経験者等から、保育の技術の評価・指導を受けることができます。
<p>- 3 職員のモチベーション維持</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各職員が自主的に業務に取り組めるように、可能な限り権限を委譲しています。 ・ 業務改善の提案を年度末に募ったり、アンケートにより要望等を把握したりする他、日常的に、園長・主任は職員と良好なコミュニケーションをとるようにし、提案や意見を出しやすくしています。 ・ 年 2 回、各人の目標とその結果について園長と職員が面談しています。 ・ 職員の経験・能力や習熟度に応じた役割を、期待水準として明文化することが望まれます。

評価領域 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>- 1 経営における社会的責任</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 守るべき法・規範・倫理等は、「全国保育士会倫理綱領」および「よこはまの保育」中の『法が求める保育者像』を配布したり、更衣室に掲示したりして、職員に周知しています。 ・ ゴミの分別や、ペットボトルを利用したおもちゃの作成、空き缶の編み物用具への利用等、ゴミ減量化・リサイクルに努めています。 ・ 冷暖房はなるべく使用しない等、省エネルギーに努めています。 ・ 保育の中で、世界には食糧がないため餓死する子どもたちがいることや、ユニセフの話等を子どもたちに話しています。 ・ 環境配慮の考え方を、園の方針や目標の中に位置づけるには至っていません。
<p>- 2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育理念・保育方針を各クラスに掲示し、職員会議でも説明し、職員に周知しています。 ・ 園長と各職員との年2回の面接の中で、保育理念・保育方針を確認しています。 ・ 保護者会が組織され、重要な話し合いの際は、園長も参加し、意見交換をしています。 ・ 主任は、指導案をチェックしたり、自ら保育の現場に入ったりして、職員の日常業務を把握しています。 ・ 主任は、個々の職員の事情を把握して勤務日程を編成するなど、職員が働きやすくなるように配慮しています。
<p>- 3 効率的な運営</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園長は、保育園経営セミナー等に参加し、事業運営に影響のある情報を収集しています。 ・ 子育て支援だけでなく、「地域支援」を重点課題として設定し、取り組んでいます。 ・ 法人として、中長期的に目指す方向を定めています。 ・ 法人内2保育園の主任を、ある期間を限って入れ換えて、両園の違いや課題を認識してもらうなど、計画的に後継者を育成しています。 ・ 理事として、外部の学識経験者等があり、運営に関し意見交換をしています。

利用者（園児）家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2006年12月28日～2007年1月22日
- 2、実施方法 全園児の保護者に対して事業者側から直接配布
各保護者より、同封の返送用封筒にて、評価機関宛に無記名で返送
- 3、回収率 88.1%（59枚配付、52枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児...8人、1歳児...9人、2歳児...11人、3歳児...9人、4歳児...9人、5歳児...6人
ただし同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どものクラスについて回答。

設問ごとの特徴

【問1】保育目標や保育方針

約70%が「知っている」と答えています。さらに、「知っている」と答えた全員が、「賛同できる」と答えています。数値は、「よく知っている」「まあ知っている」を合わせたもの。

【問2】入園する時の状況

「子どもの様子や生育歴を聞く対応」「園での1日の過ごし方の説明」については、80%以上の満足度ですが、「費用やきまりに関する説明」は、約65%と低く、より詳しい説明を望む意見があります。数値は、「満足」「どちらかといえば満足」を合わせたもの。以下同様。

【問3】年間の計画

“いろいろな行事があって楽しい”という声がある一方で、“行事の事前連絡を早めにしてほしい”という意見や“時期や内容の突然の変更がある”との声があります。

【問4】日常の保育内容

「遊び」「生活」共に、高い満足度を得ています。散歩・どろんこ遊びなどの外遊びを歓迎する声が多数あります。

【問5】快適さや安全対策

各設問とも70%台の満足度です。不満との回答の中には、雨天時のウッドデッキの安全対策を望む意見が多数あります。（園も認識しており、既に対策が講じられ改善されています。）

【問6】保護者との連携・交流

「保護者からの相談事への対応」は80%以上の満足度を得ています。それ以外の設問に対しては、60%～80%の満足度です。「送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明」は、“子どもの様子は連絡帳に細かく書かれている”という声がある一方で、“保育士から直接口頭で連絡が欲しい”との意見があります。

【問7】職員の対応

「子どもが大切にされているか」「子どもが園生活を楽しんでいるか」は、98%の高い満足度が得られていますが、「不満や要望を気軽に言えるか」「不満や要望への対応」は、50%台の満足度にとどまっています。

【問8】総合的な評価

約85%の保護者が満足しています。

まとめ

- ・保護者は、子どもたちの日常の「遊び」「給食」「生活」については、満足しています。また、職員から子どもが大切にされ、子どもは園生活を楽しんでいる様子がうかがえます。
- ・「費用やきまりの説明」「不満や要望への対応」等の満足度が低く、保護者とのより良いコミュニケーションへの工夫が、今後の課題です。

利用者（園児）家族アンケート集計結果

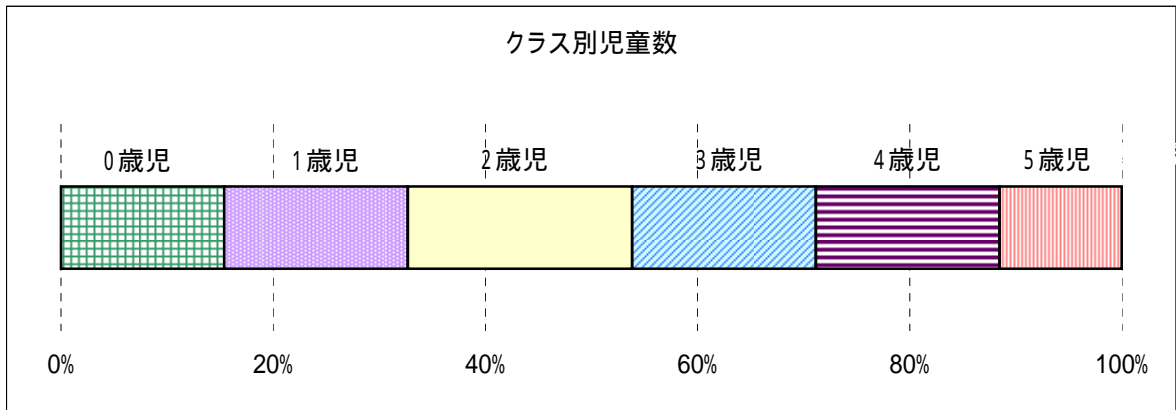
実施期間： 2006年 12月28日 ~ 2007年 1月22日

回収率： 88.1% （回収数 52枚 / 配付総数 59枚）

【属性】

クラス別児童数 同一家族で複数名が在籍の場合は、下の子どものクラスで記入

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	無回答	合計
8	9	11	9	9	6	0	52



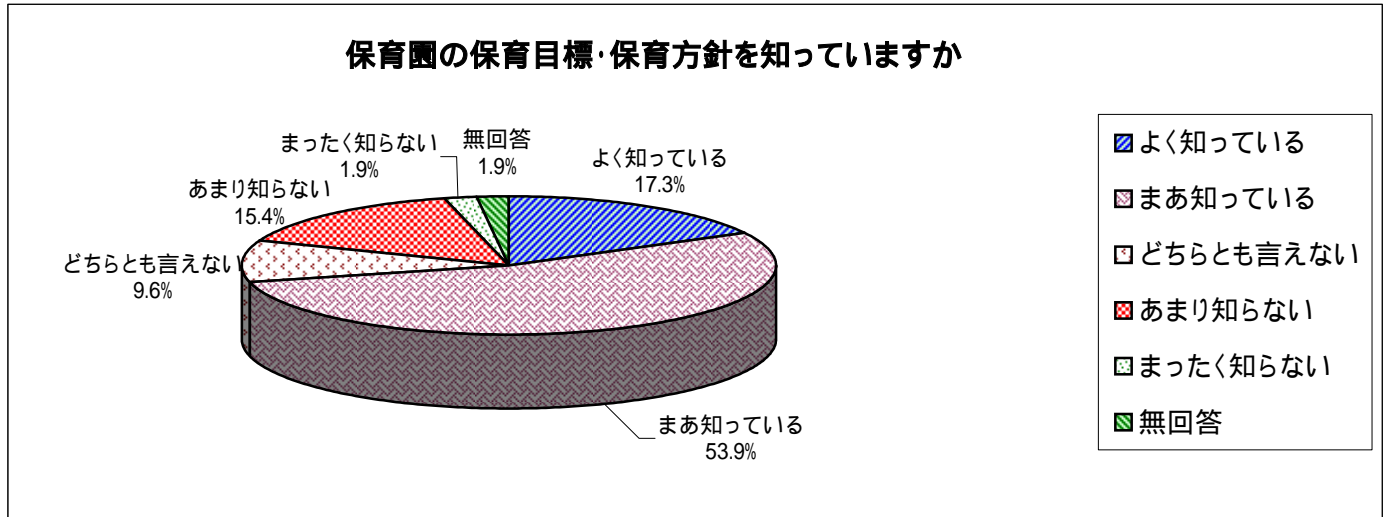
保育園の基本理念や基本方針について

問1: 保育園の保育目標や保育方針を知っていますか

(%)

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	17.3	53.9	9.6	15.4	1.9	1.9	100

(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)

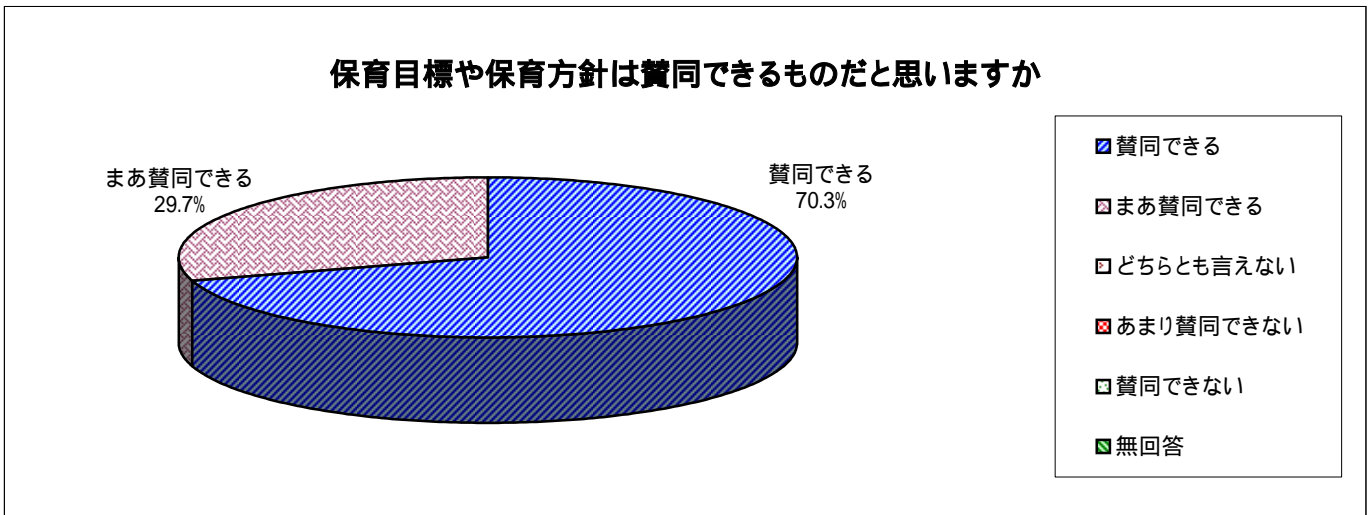


「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1: その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか

(%)

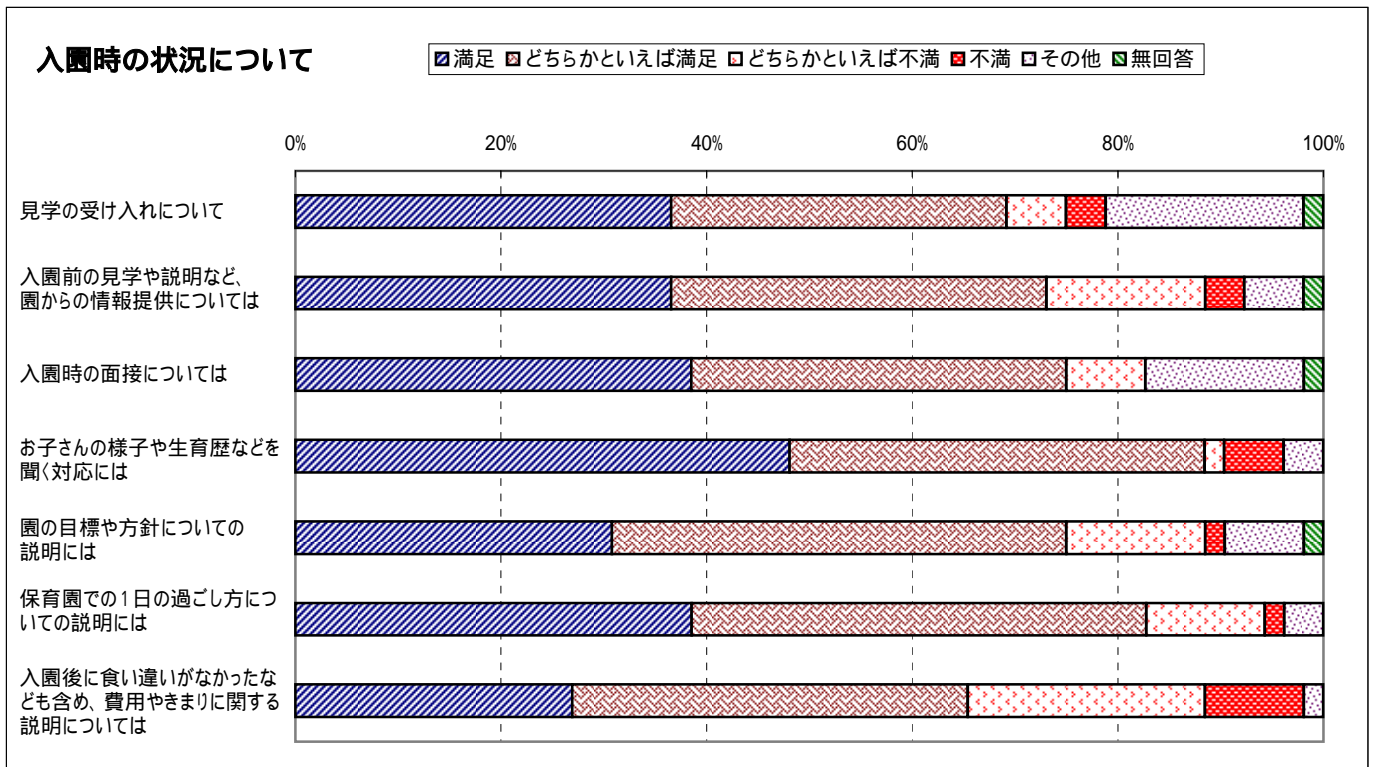
付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	70.3	29.7	0.0	0.0	0.0	0.0	100



保育園のサービス内容について 問2 入園時の状況について

(%)

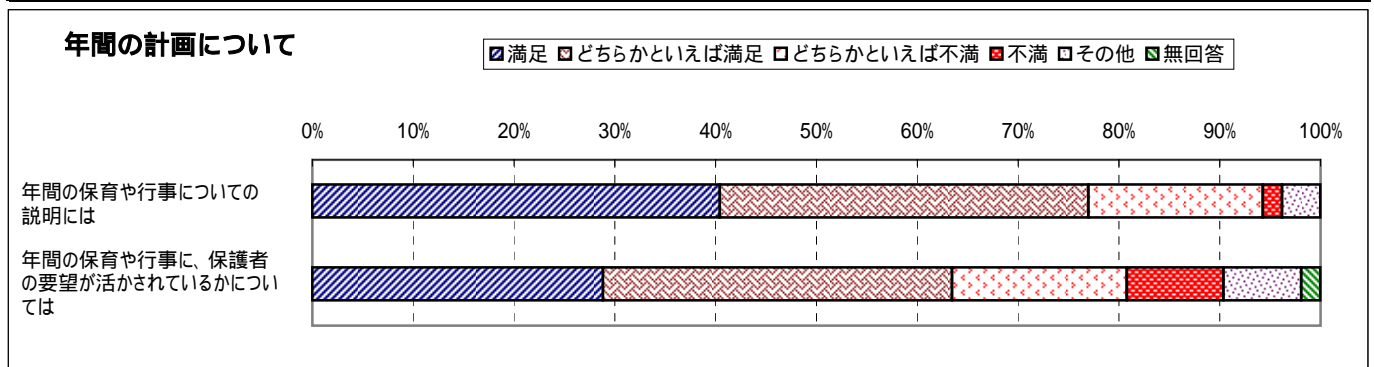
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	36.5	32.6	5.8	3.9	19.2	1.9	100
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	36.5	36.5	15.4	3.8	5.8	1.9	100
入園時の面接については	38.5	36.5	7.7	0.0	15.4	1.9	100
お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	48.1	40.4	1.9	5.8	3.9	0.0	100
園の目標や方針についての説明には	30.8	44.2	13.5	1.9	7.7	1.9	100
保育園での1日の過ごし方についての説明には	38.5	44.2	11.5	1.9	3.8	0.0	100
入園後に食い違いがなかったなども含め、費用やきまりに関する説明については	26.9	38.5	23.1	9.6	1.9	0.0	100



問3 年間の計画について

(%)

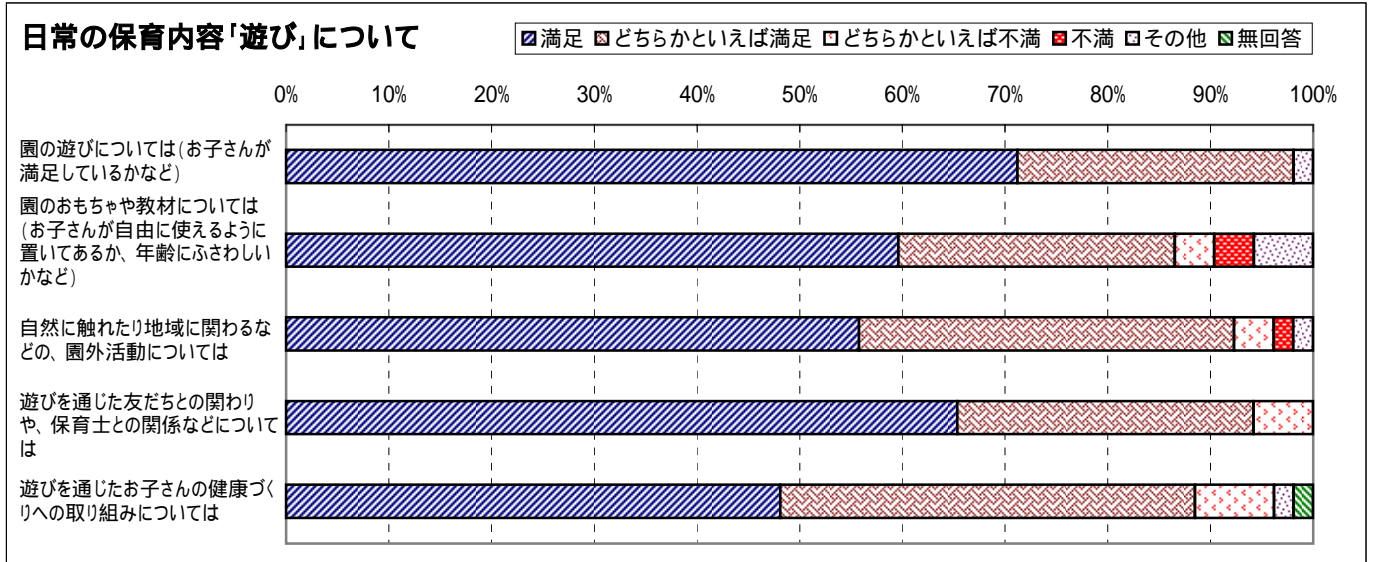
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	40.4	36.5	17.3	1.9	3.8	0.0	100
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	28.8	34.6	17.3	9.6	7.7	1.9	100



問4 日常の保育内容について

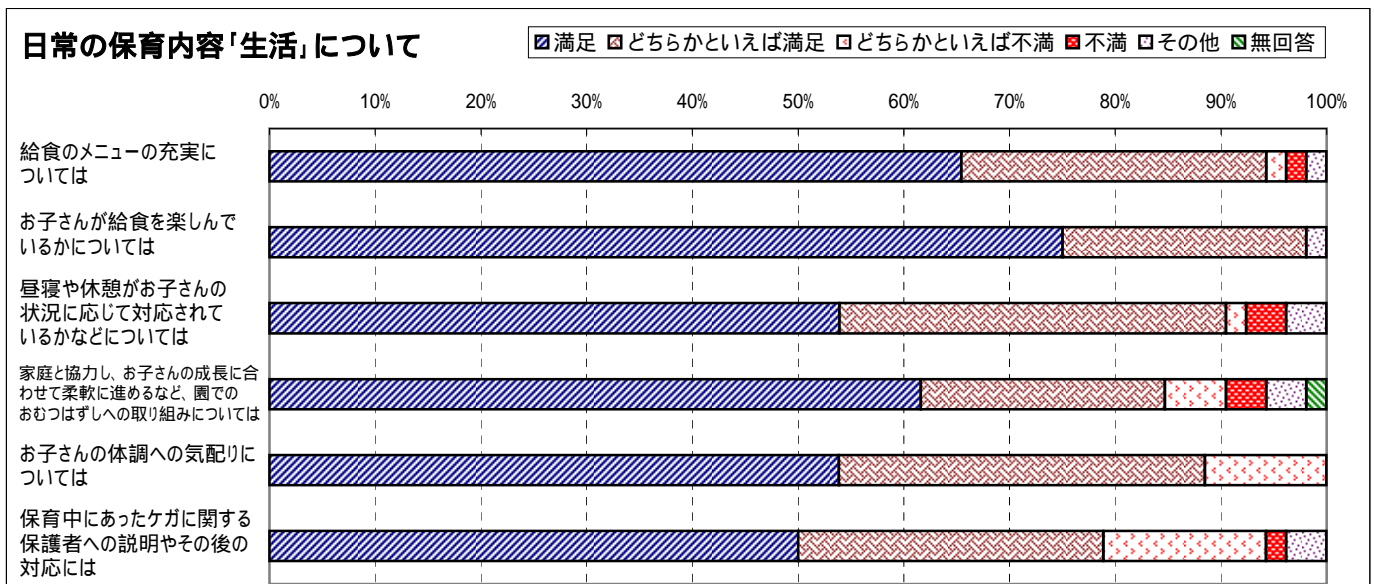
(%)

「遊び」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
園の遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	71.2	26.9	0.0	0.0	1.9	0.0	100
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	59.6	26.9	3.9	3.9	5.8	0.0	100
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	55.8	36.5	3.9	1.9	1.9	0.0	100
遊びを通じた友だちとの関わりや、保育士との関係などについては	65.4	28.9	5.8	0.0	0.0	0.0	100
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	48.1	40.4	7.7	0.0	1.9	1.9	100



(%)

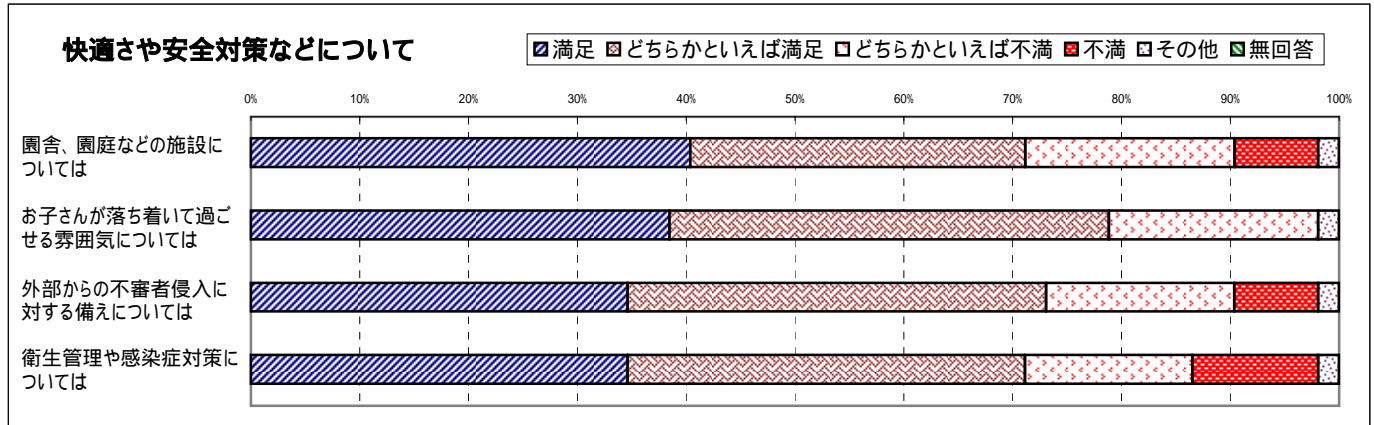
「生活」について	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食のメニューの充実については	65.4	28.8	1.9	1.9	1.9	0.0	100
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	75.0	23.1	0.0	0.0	1.9	0.0	100
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	53.9	36.5	1.9	3.8	3.8	0.0	100
家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めるなど、園でのおむつはずしへの取り組みについては	61.5	23.1	5.8	3.8	3.8	1.9	100
お子さんの体調への気配りについては	53.8	34.6	11.5	0.0	0.0	0.0	100
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	50.0	28.9	15.4	1.9	3.8	0.0	100



問5 快適さや安全対策などについて

(%)

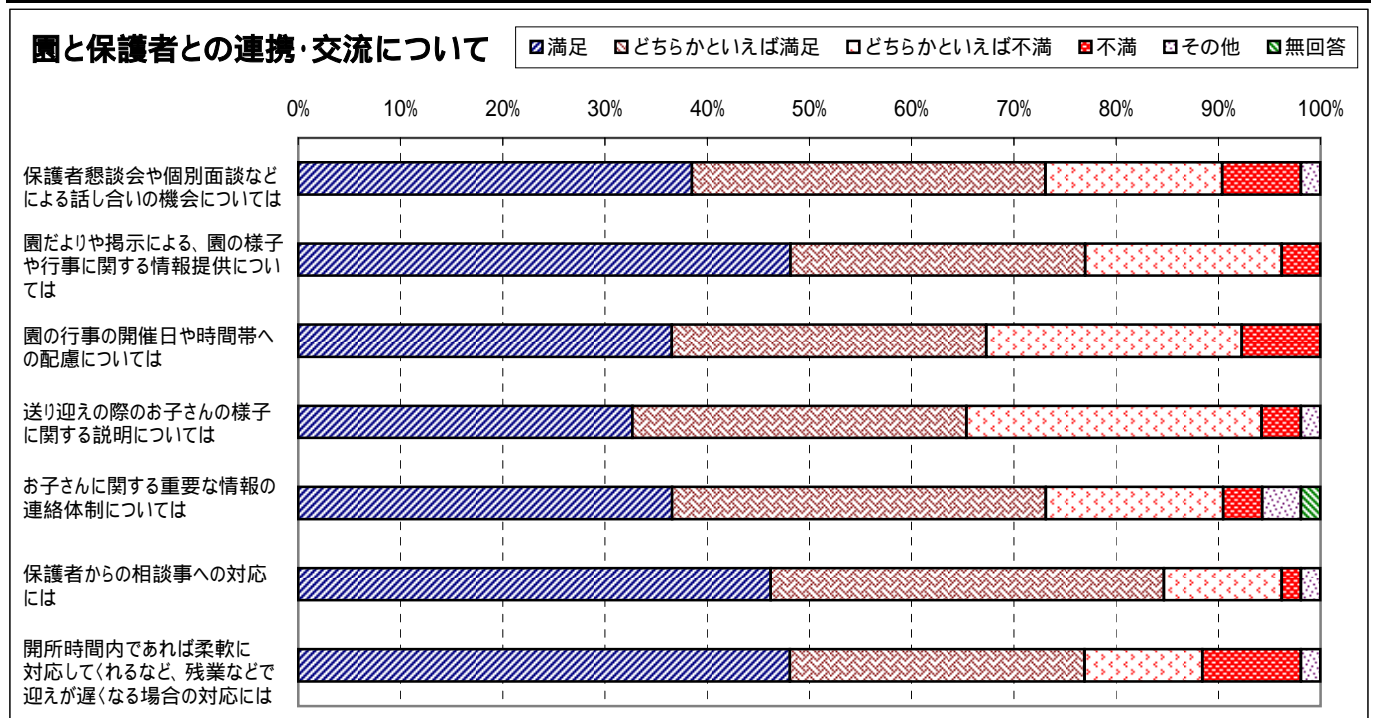
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
園舎、園庭などの施設については	40.4	30.8	19.2	7.7	1.9	0.0	100
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気については	38.5	40.4	19.2	0.0	1.9	0.0	100
外部からの不審者侵入に対する備えについては	34.6	38.5	17.3	7.7	1.9	0.0	100
衛生管理や感染症対策については	34.6	36.5	15.4	11.5	1.9	0.0	100



問6 園と保護者との連携・交流について

(%)

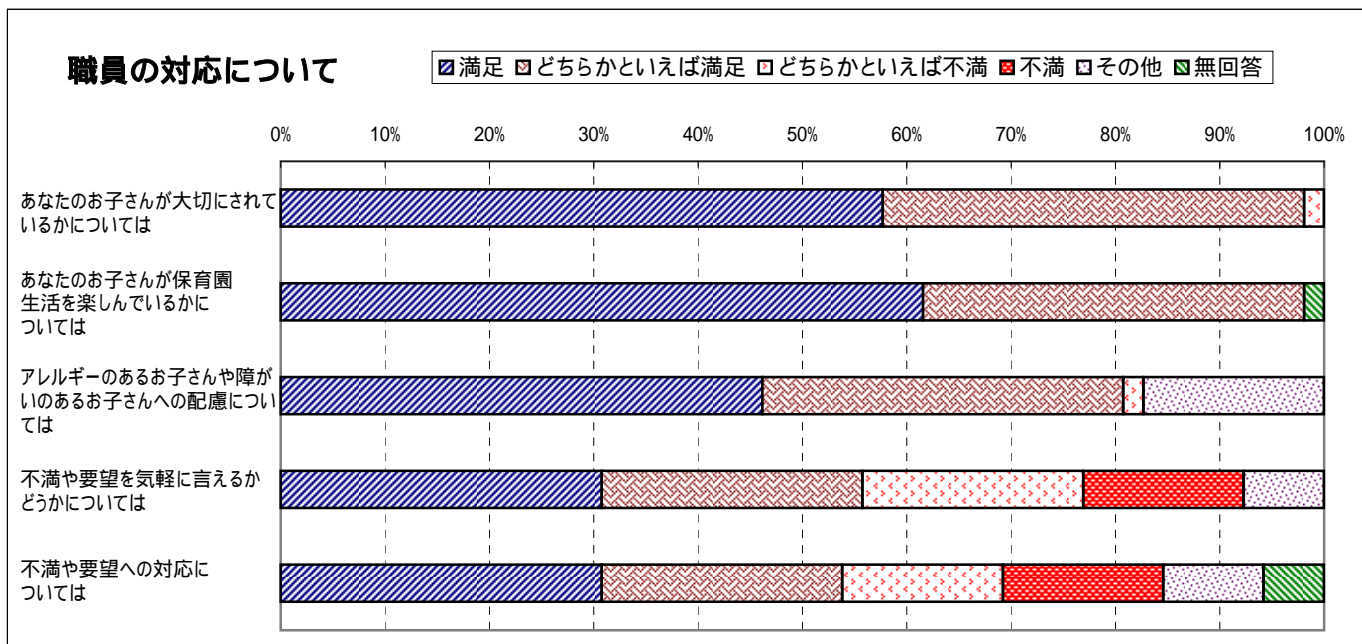
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	38.5	34.6	17.3	7.7	1.9	0.0	100
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	48.1	28.8	19.2	3.8	0.0	0.0	100
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	36.5	30.8	25.0	7.7	0.0	0.0	100
送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明については	32.7	32.7	28.9	3.9	1.9	0.0	100
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	36.5	36.5	17.3	3.8	3.8	1.9	100
保護者からの相談事への対応には	46.2	38.5	11.5	1.9	1.9	0.0	100
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	48.1	28.9	11.5	9.6	1.9	0.0	100



問7 職員の対応について

(%)

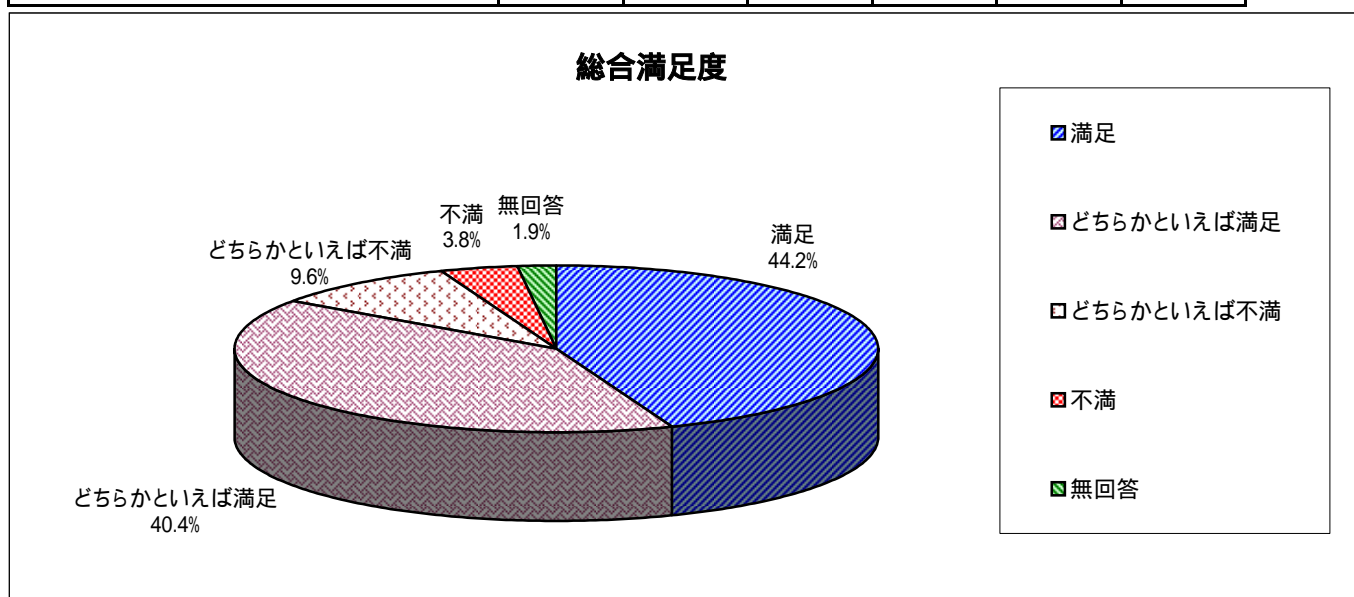
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	57.7	40.4	1.9	0.0	0.0	0.0	100
あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているかについては	61.5	36.5	0.0	0.0	0.0	1.9	100
アレルギーのあるお子さんや障がいのあるお子さんへの配慮については	46.2	34.6	1.9	0.0	17.3	0.0	100
不満や要望を気軽に言えるかどうかについては	30.8	25.0	21.2	15.4	7.7	0.0	100
不満や要望への対応については	30.8	23.1	15.4	15.4	9.6	5.8	100



問8 保育園を総合的に評価すると

(%)

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	44.2	40.4	9.6	3.8	1.9	100



利用者（園児）本人調査分析

観察調査 第1日：2007年3月13日(火) 第2日：3月19日(月)

観察中、5歳以上の園児を中心に適宜聞き取りを行いました。

1. 遊びについて

散歩

近隣に散歩先も多く、富士山や新幹線、また飛行機雲や道の草花等に目を向け、友だちや保育士とおしゃべりをしながら楽しそうに歩いて行きました。長い階段も元気に上ります。散歩先の公園や広場では、「しっぽとり」「サッカーボール遊び」「鬼ごっこ」「縄跳び」等、年齢に合った遊び方で、思いっきり体を動かしています。つくしや枯れ葉、虫やミミズ等の発見を通して、自然と直接触れることを楽しんでいました。

園内の自由遊び

乳児の遊びは保育士が先導し、幼児の場合は自分自身で遊びを見つける形になっており、子どもたちは集中して遊ぶことが出来ています。ままごと、編物、ぬり絵、折り紙、切り紙、絵本読み、レゴ、積み木等、様々な遊びをしています。園庭や屋上では滑り台や三輪車や砂場を使って、遊びが広がっていました。

卒園式の練習

数日後の卒園式を控えて、4・5歳児は式の練習をしていました。卒園証書を受け取る練習は何度か繰り返したようで、一人ひとり名前を呼ばれるとしっかりと返事をし、壇の上で証書を受け取り、椅子に戻るまでが出来るようになっていました。式で発表する歌も、きれいな優しい声で歌うことが出来ています。子どもたちは太鼓も大好きで、とても上手に演奏していました。

2. 食事について

子どもたちは皆、給食をおいしそうに食べていました。おかわりをする子どもも、たくさんいます。食事の量を減らして欲しい子どもは、配膳する保育士や調理師に自分で伝えます。子どもたちは、給食に使われている食材について保育士や調理師と話をしながら、食事が用意されるのを待っていました。

2歳児以上は、当番を決めて給食のお手伝いをしています。当番は白いキャップとエプロンをして、2、3歳児はお箸を配り、4・5歳児は、配膳に加えて献立の紹介、食事のあいさつ等をしていました。後片付けは自分たちで行い、皆上手に食器を分類しています。食事にかかる時間は、およそ決まっていますが、時間内に食べきれない子どもがせかされることはなく、自分のペースで食事をしています。

好きな食べ物は、「魚」「肉」「カレー」「炊き込みご飯」等と答えていました。「嫌いなものはない」と答える子もいました。

食後は、年齢に応じて保育士の手助けを得て、全員が歯磨きをしています。

3. 排泄について

トイレトレーニングは、それぞれ個人差があることを保護者に伝え、子どもの様子を見ながら焦らずにすすめています。昼寝や散歩に出かける前などは、保育士がトイレに行くように声かけをしていますが、通常は自分で行きたい時にトイレに行き、パンツの脱ぎ着もなるべく自分で出来るように見守っています。子どもがお漏らしをした時には、保育士が手早く子どもの体を清潔にし、床をきれいにしていました。

4．清潔・健康について

食事の前やトイレの後、散歩から帰った時などは、皆丁寧に手洗いをしています。水場には手の洗い方が書いて貼ってあり、洗い方を教えてくれる子どももいました。

散歩先で汚れた時やお昼寝の時は服を着替えます。汚れた服は、子どもたちそれぞれの棚に入れられています。

5．いやな思いへの対応や権利を守ることにについて

小さなけんかや言い争いは起きますが、保育士は子ども同士で話し合えるような関わり方で間に入り、解決するようにしていました。両方の子どもの気持ちを良く聞いています。ふざけすぎたり、危険があったりする時には叱りますが、子どもとしっかり向き合い、いけない事の理由を話し聞かせていました。

6．職員について

勉強熱心な若い保育士が多く、元気な子どもに負けない元気で、保育にあたっています。

自分で出来ることを子ども自身でさせるために、自分の力で行動を始めるまで、せかすことなくゆっくりと見守っています。そして、出来たことを大きくほめていました。さらに、子どもとの遊びの中で友だちと仲良く遊ぶこと、順番を待つこと、安全に遊ぶこと等を学ばせています。

まとめ

子どもたちは「ごあいさつ」の大切さを教えられており、保育園の内外、どちらにおいても気持ちの良い大きな声で挨拶ができます。また、身だしなみに気を配ることも教えられ、保育士に手伝われながら、着衣の乱れをきちんと直すことを日常的にしています。立ったり座ったりの姿勢や食事のマナーについても注意を払っており、幼いながらも社会の一員としての基本を身に付けることを学んでいます。

事業者意見

保育を初めて 33 年、認可をとって 6 年が経過しました。くっくとして自信を持って、くっく独自の保育を展開してきたつもりもありました。認可園になって今までの地域を離れ、くっくを知らない人達の中で、新しい職員と『くっくの保育』を展開していくのはとても大変でした。というよりできませんでした。そして、1 からスタートをするために新しい職員や保護者にくっくの事を語ろうと意気込んだ時、くっくの保育ってなんなのだろうという壁にぶちあたってしまいました。そして、おりしもその時期、保育園が福祉の枠を外しサービスの提供を前面に出し、新しい方向を向いていました。

認可になっての 3 年間はまずこの土地に慣れ、新しいメンバーに慣れ、新人と呼ばれる新卒者達に教育をし、地域にも輪を広げようとあれもこれも手を出したものの、結局職員をますます疲れさせることになってしまったように思います。何人もの職員が開所 3 年目で退職し、新たなスタートを切ったのが 3 年前でした。地域の状況やこの園の状況を少しずつ理解し、今年職員は 4 年目を迎えました。保育園の役割が変化し、子どもの育ちが困難になったと感じる 6 年目、私はもう一度初心に戻るべく、保育の見直しを行いたいと切に思いました。第三者評価受審の動機はその切実な思いから生まれました。保育園が存続し活動し続けているのは、地域の理解と、その園の歴史の中で培われた保護者の協力とで成り立っていたのであった事がよく分かりました。保育園があって子どもがいて集団があり、そこではじめて科学的に分析されたデータと保育技術が生きてきます。この日吉の土地でくっくを保育のセンターにするべく、子育てのことならなんでもくっくへと、職員だけではなく、親も地域もが口伝えで伝えていたらと思ひ、第三者評価を通してもう一度振り返りたいと思うのです。今回のために職員はたくさんの学びをし、調べをし、議論をしました。結果は、私達の保育の見直しの折り返し地点です。これで終わる事なく、今年もう一度、一から読み込み、本当の自分たちのものにするために学び直そうと全体会議で意志一致しました。本当にこの数ヶ月は貴重な時間を全職員で共有できました。調査員の皆様の温かい、それでいて厳しい指摘や評価をしっかりと受け止めていこうと思っております。ありがとうございました。

平成 19 年 5 月

くっくおさんぼ保育園 日吉

河内 恵子